

内子座楽屋企画展

2026.1.3～4.5

内子座の瓦

内子座は、大正5年(1916)の創建以来、
町民の文化の殿堂として親しまれてきました。

創建から100年余を経た現在、
耐震補強、瓦の葺き替え、部分修理の3つを柱に保存修理工事が進められています。

本展では、その葺き替え工事に伴い屋根から下りてきた瓦を展示し、
内子座の歩みと、建物を支えてきた素材の一端を紹介します。

打音検査の体験
ができるらしい!!

展示会の詳細に
ついては裏面へ!!



■ 展示について



大屋根や唐破風の鬼瓦、留蓋に配された狐・宝珠・小槌など、内子座を象徴する瓦を展示します。

また、創建当時に焼かれた瓦(大正)と、後年の修復工事で補足された瓦(昭和)を通して、時代による表情の違いを紹介します。普段は屋根の上にあり、間近で見ることのない瓦を、実物を前に見比べていただける機会です。

本展では、こうした瓦のかたちや意匠に注目しながら、内子座の歩みと建物を形づくってきた素材の一端に触れていただければ幸いです。

■ 体験できること



本展では、瓦をたたいて音を確認める「打音検査」の体験ができます。打音検査は、見た目ではわからない瓦の内部の状態について判断するために、保存修理の現場でも行われている方法です。

瓦をたたいたときの音の違いを通して、内子座を支えてきた瓦の歴史も感じていただければ幸いです。

会期	2026年1月3日(土)～4月5日(日)	
会場	内子座楽屋 愛媛県喜多郡内子町内子2102	
営業時間	9時～16時半	
観覧料	大人200円 小中学生100円 ※施設の入館料。内子町民の方は無料で入館できます。	
問合せ	内子町町並・地域振興課 内子座楽屋	0893-44-2118 0893-44-2840

内子座の屋根には、何枚の瓦が使われているでしょうか。
その答えは… 展示をご覧ください!

